

## 第3章 秩父市の歴史文化の特徴

秩父市は、1都3県に接する埼玉県内有数の山岳地域であるとともに、関東地域の主要河川の1つである荒川の源流域に位置する。こうした自然に恵まれた立地環境に根付き、秩父の人々は埼玉県内でも特徴的な生活様式を築きながら、今日まで歴史を刻み、文化を伝承してきた。

第1章並びに第2章で先述した秩父市の歴史文化について、その特徴を大きく捉えると、7つに分けられる。

### 1. 秩父盆地ができるまで

秩父盆地には新生代の地層・岩石が分布している。これらは、古秩父湾と呼ばれる海に堆積したもので、その後大地は隆起と沈降を繰り返しながら内陸の盆地となっていく。秩父盆地の地層とそこから発見された化石は、日本列島の形成を示すものとしても重要なものであり、いくつかは国の天然記念物に指定されている。

### 2. 「山国」秩父

秩父市の地形は、市域を囲む山地とその間に形成される盆地に大別され、中でも山地はその多くの面積を占めている。人々はこうした地形に適応しながら生活を営んできた。傾斜地の一部に見られる石垣の集落の形成や畑作の「逆さ掘り」は、それを顕著に表す秩父の代表的な光景である。また、原始・古代には住環境となった洞窟や岩陰、江戸時代以降の主要な産業資源となった森林や鉱物は、秩父の人々の生活と密接につながっていた。

### 3. 荒川水系と河成段丘

甲武信ヶ岳を水源として秩父市の中央を流れる荒川をはじめ、市内各所を走るその支流は古くから生活用水としてだけでなく「浄めの水」として、さらに明治時代以降はその水質の良さから織物の糸の染色用水として、秩父の人々の暮らしに寄り添ってきた。

また、地形にも影響を及ぼし、秩父盆地にはその流れの浸食によって河成段丘が形成された。特に秩父の中心市街地が位置する低位段丘では、水はけの良い土壌や複数の階段状の地形によって豊富な湧水がもたらされ、人々の生活だけでなく産業や文化の発展に大きく寄与した。

### 4. 特徴的な遺跡群

秩父市内には数多くの遺跡が残っている。中でも最も知られている存在である「和銅遺跡」は、8世紀初頭に国内で初めて自然銅が発見されたといわれる場所として有名である。

遺跡を種類別に見ると、県内最大の129基の小型古墳が密集する「飯塚・招木古墳群」をはじめ山地から川に近い低位段丘まで広い範囲で群集墳のエリアが点在しており、古墳の数は秩父市の遺跡数の半分以上に上る。また、山地にある洞窟・岩陰遺跡や山頂や河川の合流点に築かれた城館跡など土地の起伏を生かした遺跡が非常に多いことは、特筆すべき点である。

## 5. 道と人々の交流

秩父市は現在の1都3県に接する場所に位置し、古くから人々の往来が盛んな地域である。埼玉県の各地域から秩父を通して山梨へ通じる道は「秩父往還」と呼ばれ、県境に近い大滝地域には関所だけでなく加番所まで設置された。「秩父往還」以外にも、盆地をとりまく山々を越えて外部と結ぶ峠道が、古くから人々の往来と暮らしに重要な役割を果たしてきた。

また、その開創が鎌倉時代とされる秩父札所観音霊場は当初33カ所であったが、近世に34カ所に変更されるとともに江戸からの巡礼者の増加もあり、その巡礼道が大きく変更されている。こうして成立した札所巡礼道は、現在も徒歩巡礼者に利用されている。

この他、古くから人々の交流が盛んであったことは、中世武士団の広がりや江戸時代の絹市の様子など、多くの面からもうかがい知ることができる。

## 6. 土地に根付いた産業の歴史 ～材木・鉱物・生糸・織物・セメント～

秩父市の多くを占める山地は、林業・採鉱業といった産業を人々にもたらした。樹木は建材として荒川を通じて下流域へ送られ、甲斐武田氏や平賀源内が注目した「秩父鉱山」は、昭和時代に入って本格的に産業へと発展していった。また、秩父では稲作に不向きな地形が多く、古くから養蚕を行ってきた。生糸生産は江戸時代になると秩父に多くの繁栄と文化をもたらし、明治時代以降には織物業も盛んになっていった。さらに大正時代には武甲山から採取した石灰石によるセメント産業が起こり、平成時代まで続く基幹産業へと発展した。

## 7. 多様な祭り・伝統行事・信仰

秩父市には伝統行事や民俗芸能が各地に今なお残っており、「秩父祭の屋台行事と神楽」や「秩父吉田の龍勢」といった国指定の文化財をはじめ、「耕地」と呼ばれる小字単位の地域集落で継続している伝統行事まで、文化財に指定・選択されているものだけでも約50件を数える。中でも伝統行事は地域の立地や環境に根差したものから、甘酒を掛け合う祭りや「葬式祭り」ともいわれる行事まで、その様相は多岐にわたる。また、秩父地域では秩父祭をはじめとして笠鉦・屋台が曳行される祭りが多く存在するのも大きな特徴である。

そこには、秩父地域において様々な「信仰」があったことが背景にある。札所や、平安時代に武家によってもたらされた妙見信仰・熊野信仰といった寺社に關係するものに留まらず、山や水などの自然環境やオオカミのような生物に対する崇拜、さらには地域に根差す産土神などの民間信仰に至るまで、その対象は様々である。

信仰の影響は、獅子舞・神楽・歌舞伎・人形芝居といった民俗芸能の多様さにも現れており、それぞれの芸能においてもルーツや信仰によって形式に違いが生じている。